

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F140310110794	設置等組織名	ソフトサイエンス学部 情報デザイン学科
大学名	筑紫女学園大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	福岡	事業計画名	筑紫女学園大学 ソフトサイエンス学部 情報デザイン学科（仮称）設置計画

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1-① 令和6年8月～令和7年3月 新学部構想のためのアドバイザー契約（工学・情報学系） 1-② 令和6年8月～令和7年3月 新学部設置計画に係るコンサルティング契約（アドバイザー・業務） 1-③ 令和6年10月～令和8年3月 新学部設置に係るコンサルティング契約（設置認可申請支援業務/第1期） 1-④ 令和6年8月～令和8年3月 新学部設置に係る担当部署の体制強化、事業運営補助のための事務職員の任用（人件費） 1-⑤ 令和6年8月～令和8年3月 教育内容の充実のための調査（出張・旅費）	1-① 令和6年8月～令和7年3月 アドバイザーが打合せに参加した際に謝金を支払うこととした。 （工学・情報学系） 1-② 令和6年 10月 ～令和7年 1月 新学部設置計画に係るコンサルティング契約を結んだ。（アドバイザー・業務） 1-③ 新学部設置計画の構想を策定したものの、 契約の締結に至らなかった。 1-④ 新学部設置計画の構想を策定したものの、 事務職員の任用を見送った。 1-⑤ 令和7年2月「令和6年度 大学等の理系転換・拡充による人材育成機能強化会議」に出席し、教育内容の充実のための情報収集及び調査を行った。（出張・旅費）	R6年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 ・新学部設置計画の策定に向け構想を立案し、コンサルティング会社の協力を得ながら具体化の検討を進めた。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況から学部によって令和7年度に設置認可申請を行うための要件を下回る可能性が顕在化した。また、フェーズ1期間における計画の検討過程において、既存学部の教育資源を活かす学部構想の方がより効果的であると判断したことから、構想見直しを含め慎重な検討が必要となった。 ・上記の状況から、設置認可申請への具体的な取組みに遅延が生じ、新学部設置に係るコンサルティング契約及び事務職員の任用、教育内容の充実のための調査について令和6年度の実施を見送り及び縮小する判断を行った。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和8年3月 ソフトサイエンス学部 情報デザイン学科 設置認可申請予定			
フェーズ1後倒し	1-③ 令和8年4月～令和9年3月（令和6年から継続）新学部設置に係るコンサルティング契約（設置認可申請支援業務/第2期） 1-④ 令和8年4月～令和9年3月（令和6年から継続）新学部設置に係る担当部署の体制強化、事業運営補助のための事務職員の任用（人件費） 1-⑥ 令和8年4月～令和8年7月 情報発信・広報のためのTVCM制作・放映 1-⑦ 令和8年4月～令和8年7月 情報発信・広報のための特設サイト構築		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	2-① 令和8年4月～令和9年3月 新学部のための既存校舎改修（太宰府キャンパス） 2-② 令和8年4月～令和9年3月 新学部のための施設設備整備（太宰府キャンパス） 2-③ 令和8年4月～令和9年3月 新学部のためのサテライトセンター建設（初年度）の実施（福岡都心部/福岡市中央区）		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和9年4月 ソフトサイエンス学部 情報デザイン学科 開設予定（入学定員80人、工学関係）			
フェーズ2後倒し	2-③ 令和9年4月～令和9年9月（令和8年から継続）新学部のためのサテライトセンター建設（2年目）の実施（福岡都心部/福岡市中央区）		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	3-① 令和9年4月～令和13年3月 事業運営の体制強化、事業運営補助のための事務職員（ラボスタッフ）の任用（人件費） 3-② 令和9年4月～令和13年3月 教育内容の充実のための調査（出張・旅費） 3-③ 令和9年4月～令和9年11月 情報発信・広報のためのデジタル広告 3-④ 令和9年4月～令和10年3月 情報発信・広報のためのTVCM制作・放映		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和6年5月 文学部 70人減員に係る届出（入学定員200人、文学関係） 人間科学部 50人減員に係る届出（入学定員230人、文学関係、社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係） 現代社会学部 50人減員に係る届出（入学定員70人、社会学・社会福祉学関係） 令和7年度 文学部 70人減員予定（同上） 人間科学部 50人減員予定（同上） 現代社会学部 50人減員予定（同上）	令和6年5月 文学部 70人減員に係る届出（入学定員200人、文学関係） 人間科学部 50人減員に係る届出（入学定員230人、文学関係、社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係） 現代社会学部 50人減員に係る届出（入学定員70人、社会学・社会福祉学関係） 令和7年度 文学部 70人減員（同上） 人間科学部 50人減員（同上） 現代社会学部 50人減員（同上）		

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	筑紫女学園大学
-------------	-------	-----	---------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている	☒ チェック
確認の対象に該当しない	☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

コンサルティング会社から当該学部在全国的な学生確保に関する情報や確保への助言を得ながら構想段階の学生確保の計画を検討した。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、具体的な計画策定には至らなかった。
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

構想の策定において、社会的なニーズ等を踏まえ、人材育成像、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、学修目標としての取得可能な免許・資格や想定される進路、教員組織を取りまとめた。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、入学者受入れの方針や選抜方法、全学的な体制までは計画の策定に至らなかった。
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

構想の策定において、主にデジタル分野に関する人材育成像や戦略、管理・教育体制、教育研究環境整備の検討を行った。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、具体的な計画策定には至らなかった。
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

構想の策定において、民間企業での実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画の検討を行った。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、具体的な計画策定には至らなかった。
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

構想の策定において、特定成長分野（デジタル）に係る学部設置に加え、既存学部を再編する構想とした。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、具体的な計画策定には至らなかった。
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組み計画であること。

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

構想の策定において、政策動向や地元企業等へのヒアリング等で言及された人材ニーズのある分野（デジタル）に係る学部の設置の計画を構想した。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、具体的な計画策定には至らなかった。
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

構想の策定及び具体的な計画を検討する中で、地域企業の人事担当者や特定成長分野関連の従事者などの協議や意見交換を実施していた。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、具体的な計画策定には至らなかった。
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる	☐ チェック
------------	-------------------------------

構想の策定において、新学部の入学定員を80名とする計画であった。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、最終的な計画決定には至らなかった。
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☐ チェック
----------------------	-------------------------------

令和6年度の事業計画選定から3年後の令和9年度に新学部設置を計画していた。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、具体的な計画策定には至らなかった。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	筑紫女学園大学
-------------	-------	-----	---------

⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	令和5年度の総収容定員充足率は80%以上を満たしていたため申請時に計画を提示していなかったが、令和6年度、令和7年度と総収容定員充足率80%に至っていない。
	計画通りに進んでいる	☐ チェック
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備や教育の実施、多様な入学者の確保に向けた取組について、福岡都市圏・福岡県に所在するDX推進等の情報技術の活用に関心の高い地域企業と情報交換を行った。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、具体的な取組みには至らなかった。
	計画通りに進んでいる	☐ チェック
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック
⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（係開設科目等に限らない）
- ☒ チェック a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
 - ☒ チェック b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
 - ☐ チェック c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a. 主として福岡都市圏・福岡県に所在するDX推進等の情報技術の活用に関心の高い地域企業や地域自治体と事前協議を行い、学生の実践の場の確保を含めた連携体制を構築する。この連携体制を基礎としてPBL科目等での実践的学習を実施し、本学学生の実践力向上を図るとともに、地域企業や地域自治体の課題解決につながる連携を目指す。 b. 情報学分野に強みを持つ地域の他大学と協議を行い、お互いの特色・強みを活かした連携科目の整備・実施を検討する。このことで、地域全体での情報学分野の多様な人材育成を目指す。	a.DX推進等の情報技術の活用に関心の高い地域企業と意見交換を行い、企業と連携した科目の導入を見据えた学生向け試行講座を実施した。 b. 具体的計画の検討には至らなかった。 c. 申請時の計画無し	新学部設置に向け構想の策定を行った。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、構想をより具体化する計画策定に向けた他大学との協議開始には至らなかった。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- ☒ チェック a.入学者選抜における科目の見直し
 - ☒ チェック b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
 - ☒ チェック c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
 - ☒ チェック d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
 - ☐ チェック e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a. 文系理系を問わない進路選択が可能となることに配慮しつつ、高校段階までの学習状況を適切に把握する入学者選抜の実施を計画する。具体的には、総合型選抜等で意欲の高い学生を受け入れることや、理数系の基礎学力は確認しつつ、入学後のリメディアル教育で補完すること等を検討する。 b. 本学は女子大学であるため女子学生確保は当然であるが、文系理系を問わず理解しやすい授業内容とするため、身近な課題から教材を選択するなど、教育内容をわかりやすく説明することに取り組む。また、ロールモデルとなりえる女性教員やスタッフの確保に努めることで卒業後のキャリアイメージを伝えることにも取り組む計画である。 c. 学園の併設校をはじめとした福岡県並びに九州各県等の高等学校を対象に出張授業やアプリ開発ワークショップ等を実施し、本学新学部の内容について理解を深めてもらうことや、情報技術を活用する分野へ興味・関心を持つ層を広げることに取り組む。 d. 社会人入試の工夫をはじめとした社会人学生の受け入れ体制構築を検討するほか、ノーコード/ローコードツールによるアプリ開発と生成AI活用を中心とした実践的学修のエッセンスを「デジタル活用能力開発プログラム」としてまとめて社会人向けに提供する仕組みを作り、リカレント・リスキングに関するニーズへの対応を検討する。	b.情報系の有識者であるアドバイザーとの意見交換を行い、女子学生にとって魅力的な教育内容や教育内容をわかりやすく発信することについて検討を行った。また、8月のオープンキャンパスにおいて、アドバイザーによる講演会を実施し、構想中の教育内容に関連した広報を行った。 a.,c.,d. 具体的計画の検討には至らなかった。 e. 申請時の計画無し	新学部設置に向け構想の策定を行った。しかし、令和7年度入学者選抜の志願状況の悪化及び新学部構想の再検討に着手したことにより、女子学生の確保や出張授業、社会人学生受入れに向けた具体的な計画の検討には至らなかった。

大学名	筑紫女学園大学
-----	---------

1.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	筑紫女学園大学
-----	---------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	670	500																	
		入学者数	人	423	410																	
	その他の学期	入学定員	人	***	***																	
		入学者数	人	***	***																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	670	500																	
		入学者数(B)	人	423	410																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.63	0.82																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	2796	2568																	
		編入学定員	人	8	0																	
		在籍者数(D)	人	2081	1843																	
		編入学者数	人	3	9																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.74	0.72																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	41,038	29,318	33,754	23,638	26,792	28,213													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	29,955
本事業による助成金の額(F)	千円	585,841
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	44,601

特記事項

3.大学（学士課程）の状況 「収容定員等」における「編入学定員」（令和7年度）：「0」は「若干名」を表す。
